

## 第85回全国都市問題会議参加報告書

令和5年10月17日

貝塚市議会議員 南野 敬介 様

阪口 勇  
川岸 貞利

【開催日】 令和5年10月12日・13日

【場 所】 八戸市公会堂・公会堂文化ホール



【行 程】 10/11 南海貝塚駅→なんば駅（リムジンバス）→伊丹空港  
伊丹空港（12:55）JAL2163 便→三沢空港（14:25）  
三沢空港→（空港バス）本八戸駅（前泊ドリーミーイン本八戸）  
10/12 全国都市問題会議参加（八戸市公会堂）  
10/13 全国都市問題会議参加（八戸市公会堂）  
終了後 本八戸駅→（空港バス）三沢空港  
三沢空港（15:00）JAL2164 便→伊丹空港（16:45）  
伊丹空港（リムジンバス）→なんば駅→南海貝塚駅

【内 容】

### ◇第1日：10月12日(木)

八戸市公会堂・公会堂文化ホールに9:00過ぎに到着、受付を済ませ会場へ。  
9:30に始まった開会式では、全国市長会会長の立谷秀清氏（福島県相馬市長）の挨拶があり、市長会として今日の課題・懸念があげられました。

- 災害時連携支援
- 異次元の子育て支援で各自治体が負担を求められる懸念
- 新型コロナウイルスワクチン接種の患者負担（1本1万円以上）が大きいことから自治体の補助金などが求められる懸念
- 国が進める強靱システムの自治体負担 など



その後、熊谷雄一八戸市長の歓迎の挨拶と宮下宗一郎青森県知事のビデオメッセージがあり、全国都市問題会議が始まりました。

## 基調講演 東京藝術大学長、アーティスト 日比野克彦

「アート役割って何だろう？」

地域住民が参加して作る！アートで人、思いをつなぐプロジェクトを開催。

① アートは、人が人らしく生きるために重要な役割を持っている

② アートとは「多様性のある社会を築く基盤」

③ アートとは社会的な課題に対して持続的に取り組み続けていくには大切なもの  
人が集まりつなぐ場としての大空間を作った八戸市立美術館のことや国連が掲げるSDGsの17項目、169ターゲットの中にアートは無いが、それらのために気持ちよく心が動き進めていく力になるのではと話されました。

そして、アートには人の心を動かす力があり、共創拠点 共生社会をつくり、健康づくり、文化的処方を行うシステムづくり、コミュニティづくりを医療現場、福祉現場、企業、公の力が結集して今その研究が進められていることの紹介がありました。

## 主報告 八戸市長 熊谷 雄一氏

「八戸市の文化・スポーツによるまちづくり」

八戸市のスポーツの取り組みの紹介と文化の力、スポーツの力をまちづくりに活かす取り組みは、地域経済的価値があると話されました。

また、「本のまち八戸」としての取り組みでは、公設のブックセンターを設け、文化的価値を生み出す拠点施設となり、地元民間書店間のネットワークづくりも行ってきたとのこと。

そして、開かれたパブリックな場所によって住民同士のお互いの顔や活動が見える化し、コミュニティ感覚を熟成させ、交流からより良い社会を作るイノベーションが生まれるきっかけになるとのことでした。

昼食休憩後 3人の方から各々の取り組みについて一般報告が行われました。

① 文化事業ディレクター、演出家 吉川由美氏

「まちづくりの活力は 地域に根ざした文化政策から生まれる」

② 長野県東御市長 花岡利夫氏

「標高差1,500mの地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出」

③ 株式会社鹿島アントラーズFC 取締役副社長 鈴木秀樹氏

「まちづくりにおける プロスポーツクラブの有効活用」

## ◇第2日：10月13日(金)

第2日目は八戸市公会堂・公会堂文化ホールに9:00に到着。

9:30からパネルディスカッションが行われました。

コーディネーター

○東京大学大学院人文社会系研究科教授 小林真理

パネリスト

- ① 合同会社 imajimu 代表取締役 今川和佳子
- ② 拓殖大学商学部教授 松橋崇史
- ③ 沼津市長 頼重秀一
- ④ 綾部市長 山崎善也

まず初めにコーディネーターの小林真理氏から

自治体文化行政レッスン 文化政策

文化ー地域のコア 地域と共に

文化、スポーツはイベントすることではない

地域の資源の見直しを行い、人を育てること

街づくりを協働できる人を文化・スポーツを通してつくることの必要性を話されました

パネリスト① 今川和佳子氏は、

八戸出身で、東京からUターンしてきた方で、八戸市が中心市街地活性化の起爆剤として建設した「八戸ポータルミュージアムはっち(右の写真)」(2011年2月オープン)のコーディネーターとして関わったことから、八戸の地域の歴史・文化・郷土の持つ力を住民と関わり作り上げていく会社を立ち上げ活動しています。



「はっち」立ち上げの準備として、市民の憩いの広場として地域に受け入れてもらうために、オープン前に30のプレイベントを開催。

地域資源を大切にしながら、多くの取組みを展開し、「横丁オンリーユーシアター」街中を使った劇の取組みでは、多くのアーティストから注目され訪れるものになっていると、そして文化的活動が市民のマンパワーを生み出し、その力が人をつなぐと話されました。

パネリスト② 松橋崇史氏は、

「地域活性化におけるスポーツの役割とその変化」について

Jリーグが誕生して、ホームタウンと地域のかかわりが重要となり、地域の活性

化、街づくりまで大きな関わりをもつようになっていることなど紹介され、自治体がスポーツを地域活性化に活かす視点が重要だと話されました。

パネリスト③ 頼重秀一氏は、

「スポーツとアニメを活用した賑わいの創出」について  
人口約19万人の沼津市のJリーグ「アスルクラロ沼津」や「フェンシングのまち沼津」の取組みの紹介とアニメ「ラブライブ！サンシャイン！！」を活かした街づくりについて話されました。

パネリスト④ 山崎善也氏は、

「文化芸術・スポーツで紡ぐまち・綾部」  
市民一人1文化、1スポーツの推進を掲げた街づくりについて  
「合唱のまち・綾部」の取組みや自治会対抗ソフトボール大会・市民駅伝競走大会などの地域に根ざしたスポーツ大会の開催やサイクリング・カヌー・トレッキングなど自然を活用したスポーツ観光の推進によるまちづくりの取組みの紹介がありました。

## 【感想・成果】

今回の全国都市問題会議は、「文化芸術・スポーツが生み出す 都市の魅力と発展」がテーマでした。会議前には街の発展には難しいテーマだと感じていました。

しかし、開催地である八戸市の取組みや何もないところから市の地勢を活かし、国内で高地トレーニングのできる施設をつくり多くのアスリートを呼び込み地域の活性化につなげている東御市の取組み、市民一人1文化、1スポーツと謳い「文化芸術・スポーツで紡ぐまち」を市政の真ん中に据え、市民のつながりと健康をめざす綾部市の取組みは、非常に勉強になりました。

確かにどこの都市にも、祭りや郷土芸能があり、これまでも街の活力や地域のつながりとなり、生活を豊かにするために重要なものでした。

また、新しい街の魅力や活力を生み出すため、新しい文化・スポーツを作り出す取組みも、八戸市の取組みを見て関心をさせられるものでした。そして、その取組みの中心に人がおり、人づくり・地域づくりの働きかけと市の率先した取組みが求められると感じました。

貝塚市でも、太鼓台やだんじり祭りの活性化やそのほかの埋もれている地域の活動・財産を掘り起こし、盛り上げる必要性を感じました。文化を市民とともに作ることを市政の大きな一つの柱として、地域の活性化を行うべきと考えさせられる大変すばらしい全国都市問題会議でした。